



加  
 治  
 田

东  
 流

集  
 山  
 秩  
 下

特 別  
 入 5  
 6673  
 16  
 早稲田大学図書館





寶曆八戊寅



歳旦

杉雨庵

巴山

門書之

是うら木くも

芭也々々

各詠

大猶也此爰も喜の外あらん

守松

こころの夢の華之如の初

歳令

その是ハ風もそけよ送るも

可調

如よと思ふもまもよ一着長約

虎録

あらむもるふつけるは若きも

竹布

福草の芽もよよ又元も

喜柳

門書也神よさるも悟り

有徳

初雪の光のまろぬ明あら

仙市

青まてハ行を憐れそ初雪

芳文



人目

巴山

七種也先の何くハ捕を海へ

雪も春とて松法をより 見ル

ぬつうひも糸よ身寄を此せり 夕

ゆふ言ふ花とれくこを 花鏡

黄すき酒も幸りふの月 守玉

片もまよく風まらて所 仙布

それとまふ秋の交并此去んくと 可調

土懐のけ小まけぬ 柳立 其柳

洲原とけ産皮中とけりうれく 有徳

是て産心と結あけてや 竹布

花曇りといはとも強の産 裁今

めらこいにけ 玉の暖 柳生

竹所室のあり(その冬葉を)

女并産

信川とも詠免にたけ

丁世 葉書 竹の書

あ引よ心のそふ衣をより 花鏡

来うりて縁うきと年の坂 夕夕

市の原産んくろと年の毒 裁今

縁揃も店ハ餅のもしんまて 吟鏡

春も二言ふ屏凡一言と年鏡 竹布

年産也市は蹴る言の交 其柳

紗帯ハ急なほえくと年日とれ 仙布

種の高此とくぬ里も春近し 可調

先春は目鏡あつけく春んか 守玉

久しとよとせ打もあつと年の市 巴山



三  
けをるよりけりしと年の  
あしと此處きい初毎房此  
けりしと申すもけりしと申す  
と申んも不いけりしと申す  
年の市人よりけりしと申す

竹河室

見承

己の宿よ

初高八中して

系竹賣



